

怪異談

## 生きてゐる小平次



この世のつらさを

世にあらす

貴の河原、厄払い

中川信夫 脚本・監督作品

キャスト 藤間文彦 宮下順子 石橋正次

怪異談

## 生きてゐる小平次 解説

戯曲「生きてゐる小平次」は、大正13年8月「演劇新潮」に発表された大正時代の俊才劇作家・鈴木泉三郎の代表作であると同時に遺作である。舞台初演は翌大正14年6月新橋演舞場において、名優・6代目尾上菊五郎、13代目守田勘弥らの手によって上演され、好評を博したが、その時、すでに鈴木泉三郎は、32歳の若さでこの世を去っていた。



2人の男と1人の女—この3人に限定された登場人物のみで展開する物語は、いまなお上演されることも多く、「心理的怪談」ともいえる舞台効果は、複雑多様化する現代において、また怪奇の世界にも、一層の新鮮な光明を放っている。

この戯曲を基に、日本映画界の最長老・中川信夫監督が映画化したものである。

磯田事務所・ATG提携作品  
カラー・スタンダード  
上映時間／1時間18分

### ■スタッフ

製作……磯田啓二

企画……滝沢一

原作……鈴木泉三郎

脚本・監督……中川信夫

美術……西岡善信

撮影……樋口伊喜夫

撮影補佐……野村治平

照明……小中健二郎

録音……川嶋一義

雑音……福原清彦

三味線／唄……岡本宮ふじ

助監督……鈴木健介

舞台協力……藤間事務所

製作協力……映像京都

和歌山築映

### ■キャスト

小平次(役者)……藤間文彦

那古太九郎(雛子方)……石橋正次

おちか(太九郎の女房)……宮下順子

ATG創立20周年記念2本立特別上映

同時上映：中川信夫監督作品「東海道四谷怪談」

特別鑑賞券¥1,200 好評発売中

(当日一般¥1,500・学生¥1,300)

## 8月下旬ロードショー!

アート・シアター  
有楽シネマ (201) 3066

小平次 10:30(日・祝のみ)/1:35/4:40/7:45  
四谷怪談 12:00/3:05/6:10

歌舞伎町  
新宿アカデミー (202) 0141

小平次 (連日) 11:30/2:35/5:40  
四谷怪談 1:00/4:05/7:10

「あらずじ」

小平次は役者、太九郎は囃子方と、今は、しがない緞帳芝居に身を任す若者二人。しかしながら「一朝、志を得たら」それぞれ団十郎や近松をも目指さんとするほど威勢が良い。おちかはお九郎の女房で、小平次も以前からおちに想いを寄せており、この三人は寺小屋でいっしょに「いろはにほへと」と学んだ幼な馴染みでもある。

太九郎は独り身の小平次のことを案じ、秘かに見合いをさせようとしたその日、事を察した小平次は太九郎との約束を破り、太九郎の家におちかを尋ね、「おちかさん、おれの女房になってくれ」と切り出した。驚くおちかは「あたしはあの人のお女房だよ。亭主があるのに、どうしろていうの」。さらに「あたし、子供が出来たらいい」と告げるのだった。

そんなある日、小平次と太九郎は共に旅芝居に発つことになり、留守をするおちに「太九に言うよ、おれにおちかを呉れて」と言い残す小平次だった。

芝居の暇に沼に舟を浮かべ釣糸を垂れる二人。小平次がさりげない口調でいう。

小平次「おちかさんをおれに呉れろ」

太九郎「……」

小平次「呉れろ」

太九郎「……」

小平次「頼む」

太九郎「よしやがれ」

二人は遂に揉み合いとなり、水に落ちた小平次を太九郎は水棒で打ち据えるのだった。

太九郎は一座を脱けておちかの元へよろめきながら還り、小平次を殺したと打ち明ける。おちかは動じないが、ふと気付くと、なんと小平次が目の前に居るではないか？二人は息をのむが……亡霊ではない。

太九郎「許してくれろ」

小平次「おちかさんを、おれの女房に呉れろ」

怒った太九郎は三味線の撥で小平次を滅多打ちにすると、小平次は遂に動かなくなってしまう。

太九郎はおちかと共に逃げようとするが、おちかはさめた眼差しで太九郎を見つめるのだった。

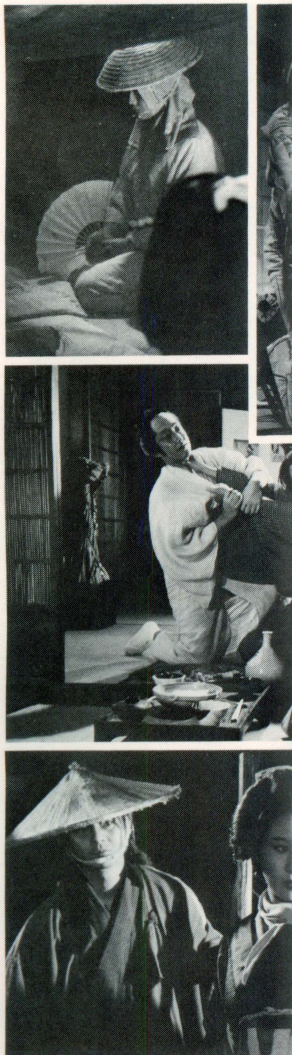
人目を恐れて江戸を逃れた太九郎とおちかだったが、太九郎の頭には夜となく昼となく小平次の姿がこびりついて、どうすることも出来ない。そして徐々にその太九郎の怯えきった様子におちかは愛想をつかし始めながらも、二人は旅を続けるのだったが、その跡を影のように……。

中川信夫のひとと作品



明治38年4月18日神戸の生まれ。学生時代から文学青年として、プロレタリア文学の洗礼を受け、また映画に大いに親しんだ。昭和4年マキノに助

監督として入社、マキノ正博に師事し、かたわらシナリオを書く。9年マキノ倒産後、市川右太衛門プロの助監督となる。10年「東海の顔役」で監督としてデビュー。これはマキノ正博の系譜につながる映像の視覚的流れ、リズムを重視したもののだが、右太衛門プロ作品の泥くさい作品群の中では、きわだって新鮮さがあつた。その後、マキノ・トーキー、東宝京都へと転ずるが東宝ではもっぱらエノケン映画の座付き監督的役割を果たす。さらに戦後は新東宝と契約、以後も東映、東宝と渡り鳥的に東西の撮影所を転々とするが、最後に大蔵貢社長の新東宝に解散まで腰を据えた。代表作



であり日本の怪奇映画史上に残る傑作とされる「東海道四谷怪談」「地獄」もこの時期に撮る。ともに怪奇映画というより、人間修羅の深奥をのぞいた作品であり、人生経験の集積と職人芸の中であつた。この2作のほか、「恥を知る者」(10年)、「伊太八編」(13年)、「かあちゃん」(36年)、「お勝兎状旅」(44年)等の代表作がある。(滝沢一)

中川信夫監督作品リスト

- |                        |                              |                          |                         |
|------------------------|------------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 昭9 1号矢八幡剣(石太衛門プロ)      | 昭24 深夜の告白                    | 昭32 ぼろふき丹次               | 昭36 東海道四谷怪談             |
| 昭10 2東海の顔役             | 昭25 エノケンのとび助冒険旅行(新東宝・エノケンプロ) | 昭33 兄さんの愛情(東宝・丸山誠治と共同)   | 昭37 雷電                  |
| 昭11 3恥を知る者             | 昭26 私刑(リンチ)(新東宝)             | 昭34 番場の忠太郎(新東宝)          | 昭38 続・雷電                |
| 昭12 4御用唄風小僧            | 昭27 2月の出の接吻                  | 昭35 夏目漱石の三四郎(東宝)         | 昭39 地獄                  |
| 昭13 5修羅八荒・前篇(マキノ・トーキー) | 昭28 千里の虎(新光映画・東映)            | 昭36 青カ島の子供たち・女教師の記録(新東宝) | 昭40 旗本退屈男・謎の珊瑚屋敷        |
| 昭14 6修羅八荒・後篇           | 昭29 アマテラ珍騒動(青柳プロ・新東宝)        | 昭37 恋すがた狐御殿(宝塚映画・東宝)     | 昭41 旗本退屈男・謎の珊瑚屋敷        |
| 昭15 7修羅八荒・後篇           | 昭30 若様侍捕物帖・謎の能面屋敷(伊藤プロ・新東宝)  | 昭38 阿修羅三剣士(新東宝)          | 昭42 まぼろし天狗              |
| 昭16 8槍持街道              | 昭31 鬼姫くぐれ                    | 昭39 怪異宇都宮釣天井             | 昭43 紀州の暴れん坊             |
| 昭17 9旗本八万騎             | 昭32 呪いの人形師                   | 昭40 妖艶六死美人               | 昭44 稲妻峠の決闘              |
| 昭18 10女左膳・妖火の巻         | 昭33 旗本退屈男・唐人街の鬼(東映)          | 昭41 妖艶六死美人               | 昭45 日本残酷物語(しばたプロ・新東宝興業) |
| 昭19 11女左膳・第二篇 魔剣の巻     | 昭34 高原の駅さようなら(新東宝)           | 昭42 妖艶六死美人               | 昭46 小森白・高橋典と共同(記録映画)    |
| 昭20 12日本一の岡ッ引(東宝)      | 昭35 さすらいの旅路                  | 昭43 妖艶六死美人               | 昭47 男の嵐(日米映画・松竹)        |
| 昭21 13伊太八編             | 昭36 右門捕物帖・緋鹿の子異変             | 昭44 妖艶六死美人               | 昭48 妖艶毒婦伝・お勝兎状旅(東映)     |
| 昭22 14月下の若武者           | 昭37 大姫様                      | 昭45 妖艶六死美人               | 昭49 怪異談・生きてゐる小平次(ATG)   |
| 昭23 15エノケンの森の石松        | 昭38 恋風五十三次(東映)               | 昭46 妖艶六死美人               |                         |
| 昭24 16エノケンの頭張り戦術       | 昭39 いとし子と耐えてゆかん              | 昭47 妖艶六死美人               |                         |
| 昭25 17丹下左膳・雙眼の巻        | 昭40 今日会社は月給日                 | 昭48 妖艶六死美人               |                         |
| 昭26 18エノケンの弥次喜多        | 昭41 夕焼け富士(総芸プロ・新東宝)          | 昭49 妖艶六死美人               |                         |
| 昭27 19金語楼のむすめ物語(東宝)    | 昭42 江戸ッ子判官(東宝)               | 昭50 妖艶六死美人               |                         |
| 昭28 20エノケンの養の土俵入       | 昭43 伊豆の佐太郎(新東宝)              | 昭51 妖艶六死美人               |                         |
| 昭29 21電撃息子             | 昭44 謎の人形師(東映)                | 昭52 妖艶六死美人               |                         |
| 昭30 22エノケンのワンワン大将      | 昭45 江戸の花道(東映)                | 昭53 妖艶六死美人               |                         |
| 昭31 23虞美人草             | 昭46 思春の泉(俳優座・新東宝)            | 昭54 妖艶六死美人               |                         |
| 昭32 24馬車物語(新東宝)        | 昭47 雲は天才である(新東宝)             | 昭55 妖艶六死美人               |                         |
|                        | 昭48 青春無銭旅行                   | 昭56 妖艶六死美人               |                         |

題名下の(一)は製作・配給会社、(二)の(一)は前作と同じ製作・配給会社につき省略しました。